

筆山

第56号／2014年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/ 中平 公美子 (59回)

発行人/ 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ: <http://www.tosako-kanto.org/>



「高知家」サイドストーリー

My可盗を毎日持参するほど大好きな我が高知県のために、自分のキャリアを活かして何かお役に立てないものか。五十歳を過ぎ日々悶々としていた私に、ある日突然、濱田知佐さん(五六回生)からの電話。「安田さんが会いたかったからおられた県庁の方が、今、羽田空港で搭乗待ちで...」。即、会社からタクシーに飛び乗り土佐高OBでもある県の部長(五一回生)に初対面の突撃「この広告馬鹿が高知県のためになにかお役に...」。先輩は「同じ思いで頑張っているカツオ人間プロデューサー小笠原慶二くん(五九回生)や県庁にいる同級生(五二回生)と会ってみては...」。と。これを機に県庁関係者の皆様に続々とお会いできたのですが、当然のように、熱い思いがあるからといって県の事業をすぐに任せられるということにはならず、全くのNOチャンス。幾ばくか時は流れ、さすがに志も折れかけていた頃、降って湧いたフジテレビ「遅咲きのヒマワリ」放映。それに伴う首都圏等への「移住促進プロモーション」プロジェクトのポータル公示。弊社・電通高知県人会を中心にプレゼン。運よく競合審査を通過し事業受託。その後の大型公示案件も「高知県はこうあって欲しい」という熱い思いで応募し競合審査の上事業受託。これが「高知家」キャンペーンへ。今は高知県庁や高知県地産外商公社の方々の御指導のもと、広末涼子さんをはじめ多くの献身的な高知県関係者と、高知大好きスタッフと共に作業邁進させていただいております。「高知県は、ひとつの大家族やき。高知家」と、県にかかわる全ての方々を「家族」と見立て、「高知県のええもん、ぜーんぶおすそわけやき。」と、みんなあゝで高知の良さを全国にアピールの本キャンペーン。どうぞ同窓生皆様の御理解・御支援を厚く承りますよう、伏してお願ひ申し上げます。

関東支部総会&懇親会

2014年6月7日 霞が関ビル・東海大学校友会館

～4の回が担当しました～

4の回 活動報告

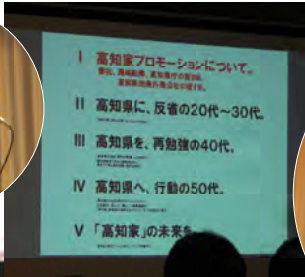
今年の関東支部総会は六月七日(土)に行われました。総会に続いて行われます恒例の基調講演は「高知家」の誕生物語。と題して特電通のシニア・クリエーティブ・ディレクターの安田雅彦さん(五二回生)に依頼。本日に素晴らしい内容の講演で、改めて高知のことを考え直す良い機会になりました。

懇親会でも講演会での内容を反映させようと七四・八四回生が大いに奮起。土佐の伝統的なお座敷遊びである「しぼてん踊り」と「菊の花」を企画いたしました。当日を迎えるにあたり講演して頂いた安田さんのご指導の下、事前に相当練習をしてきたと聞いておりましたが、本番ではなかなかの芸達者振りを発揮してくれて大いに会場が盛り上がりました。

また、当日は高知県地産外商公社様にご協力をお願いし、高知県の特産品販売も実施。おかげさまで好評を頂き、売上げも上々でした。その他にも特別企画として今年一月にお亡くなりになった直木賞作家の坂東眞砂子さん(五一回生)を偲ぶコーナーと、同じく現役の女流棋士である島井咲緒里さん(七四回生)による詰め将棋コーナーを設置。これらの企画も大変好評を頂き、懇親会にとっても素敵な色を添えてくれたものと感じております。

準備に際しましては大変な部分も多々ございましたが、改めて自分の中の「高知県」「土佐校」がとても大切な位置づけであることを再認識できた総会でした。

窪田淳夫(六四回)



【上】講演後、安田雅彦さん(52回)へ花束贈呈

【右上】母校の近況を報告する山本芳夫校長(40回)

【右下】はちきん会世話役代表交代
【左上】総合司会は田中啓三さん(44回)

◆土佐中・高等学校同窓会関東支部新役員

支部長 森 郁夫(四一回生) 留任

幹事長 市川 直介(五三回生) 留任

事務局長 二宮 潔(四九回生) 留任

副幹事長 前田 憲一(三七回生) 新任・筆山会連携

黄川久美子(四七回生) 留任

川上 司(五二回生) 新任・名簿補佐

澤田 和英(五三回生) 新任

濱田 知佐(五六回生) 留任・はちきん会

宮崎 晶子(六七回生) 留任・はちきん会

加藤 文典(七六回生) 留任・若手の会

澤田 千紘(七八回生) 留任・若手の会

幸徳 正夫(三七回生) 留任

森木 隆裕(五九回生) 留任

北村 悠夏(八三回生) 新任

川上 正衡(五八回生) 新任・会計から

◆常任幹事

会計補佐 深田 晋平(七三回生) 新任

名簿委員長 中平公美子(五九回生) 新任・副幹事長から

筆山編集長 簡井 康賢(四一回生) 留任

H.P.編集長 西森 さと(五七回生) 留任

総会世話役 曾和 純一(六六回生) 留任

顧問 宮地 貴一(二一回生) 留任

浅井 伴泰(三十回生) 留任

溝渕 真清(三二回生) 留任

佐々木泰子(三三回生) 留任

大石 和男(四十回生) 留任

岩村 康生(四一回生) 留任

鶴和 千秋(四一回生) 留任

永森 裕子(四四回生) 筆山編集長退任
長谷 至誠(七六回生) 副幹事長退任

退任

新・卒業生の89回生をご招待！しばてん踊りや菊の花、女流棋士・島井咲緒里さん（74回）による将棋講座、板東眞砂子さん追悼コーナーなど工夫がちりばめられた懇親会でした！



『筆山』編集長交代のひょうたん

窓の外を見上げるといつの間にか、青葉の季節になっていきます。先の名編集長が、ご都合で続けられなくなり、このまましばらく休刊という話もございましたが、新聞部にいた身としては、一度ストッブすると、再刊はままならない、思わず二年間なら、とお引受けしました。二年後には、生活のシフトが高知になるからでした。ところが、私自身、昨年の夏、高知に帰省中、深刻な病気がわかり、医大で手術、三か月入院、今も毎週東京に通っており、そんなわけで次期編集長にお願いしてあった中平公美子さんに一回早く一二



新・編集長 五九回 中平公美子

い難しい刺激ですが、頭の筋肉と体力を使い、届いて嬉しく『筆山』を目指して頑張ります。よろしくお願ひ致します。

月号から登場して頂くことになりました。また、印刷工房担当の勝田千砂さん（七二回）、この方が縁の下の方力持ちで頑張ってくれています。どうかこのお二人のコンビに暖かい声援を送って下さいますようお願い致します。

四四回 永森裕子（写真右）

編集員に誘っていたいたのは二年前のこと。親の介護を終え、子供二人が大学生となった専業主婦は、初体験での刺激が欲しい頃でした。昨年、突然編集長の仕事を引き受けた時の不安は、今も大きくなるばかりですが、皆様が快く執筆してくださるのでありがたいです。編集長の仕事は、力・イ・カ・ン！とは言えない、肩の筋肉と体力を

母校便以

学校長 山本 芳夫 (40回生)

○**大学入試結果について**
今年の大学入試の結果（総括）は次表の通りです。前年と比べ、新卒者（八九回生）の現役合格率、国公立合格者数とも大幅に上昇いたしました。また、国公立医学部合



4月8日（火）土佐中学入学式が行われ
第95回生261名が入学

関東支部の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は母校に對し格別のご支援ご厚情を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

○創立百周年記念に向けて

二〇二〇（平成三二）年十一月十八日に迎える創立百周年記念日まで六年余りとなりました。そのメモリアルイベントに向けて、今年度中に百周年記念事業を検討する組織を立ち上げ、同窓会をはじめ各方面のご賛同ご協力をいたさながら、記念事業計画の構想と具体策を固めてまいりたいと考えております。これに関連して、今後同窓生の皆様には色々な形でお願いを申し上げることがあると思いますが、その節はどうかご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

年度	26年度	前年度
現役合格率	71.2%	63.9%
国公立 現役合格者	119名	95名
難関10大学*	47名 (現23名)	51名 (現25名)
国公立・医学部 ＜医学科＞	27名 (現10名)	21名 (現9名)

*旧帝大：一橋・東京工・神戸

本年度：東大5名（現1名）
京大7名（現1名）

の文武両道の達成」を目指してまいります。

○高一生の修学旅行について

今年も十一月十七日から二一日の日程で恒例の高一生の東京・京都の修学旅行を予定しておりますが、中でも東京圏のコース別一日研修は生徒にとつては今後の進路を考える上での貴重な実体験となっておりまふ。本研修実施に当たつては例年関東支部の同窓生の皆さんにお世話になり感謝しております。今年もどうか宜しくお願い申し上げます。

向後暑い季節を迎えますが、皆々様のご自愛とご清祥を心から祈念申し上げます。近況報告とさせていただきます。

記・平成二十六年五月二〇日

母校／同窓会本部／各支部

土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosa.ed.jp/index.html>
土佐中学・高等学校 同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosaobog.com/>
北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp
東海支部 事務局長 瀬沼憲司 〒455-0064 名古屋市港区本宮町6-7-5 フォレスト本宮201
(E-mail) knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP) <http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/>
関西支部 幹事長 原田和子 〒662-0015 西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方
(TEL) 090-1073-7822 (FAX) ナシ (E-mail) harada73@hotmail.com (HP) <http://www.tosa-ko.org/kansai/>
広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007 広島市南区皆実町6-3-26-902 (TEL) 082-253-5759
(FAX) 082-254-7523 (Email) spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP) <http://www.geocities.jp/hiroschimashibu/>
香川支部 事務局長 武山正人 (担当: 大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL) 087-821-5061(代) (FAX) ナシ (E-mail) ooishii1737@yonden.co.jp
関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所 弁護士市川直久 付
(TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhm-japan.com

本部便り

関東支部の皆さん、日頃は同窓会本部に格別のご支援をいただき、ありがとうございます。ところで、皆さんのふるさと高知は、ここ十年間に人口減少が急速に進んでいます。先頃の地元紙の報道によると2004年に81万4千人あった県人口は、昨年74万5千人となり、75万人を切ったとの事。このまま推移すると、2040年には51万2千人になるとの予測もあり、出生率の改善や、都市部への人口流出の抑制、県内への移住の促進等が、県勢の重要な課題となっています。

◎2015会員名簿発行について

さて、本部常任役員会は、新校舎内に設けられた同窓会室で、岡内会長中心にほぼ毎月一回開かれています。前回の主な議題は、5年に一度発行している同窓会会員名簿をどうするかでした。いつも検討されるのは個人情報保護、目的外利用防止の観点から、名簿を紙ベースで作り、郵送するという現在のやり方をいつまで続けるかです。

同窓会本部財政の多くを、この名簿発行の広告料、協力金に依存している現状を踏まえ、来年末の発行に向けて準備を進めていくこととなりました。皆さんにはあて先不明の同窓生の最新の情報提供についてご協力をお願いします。

なお、各会員への名簿調査は来年5月連休明けを予定しています。

◎2014ホームカミングデーについて

今年のホームカミングデーは企画運営を「4の回」の実行委員が担当。実行委員長の高知高明さん（44回生）を中心にユニークなイベントが企画されています。詳しいご案内は7月中旬に皆さんのお手元に届きます、お問い合わせの上ご参加下さい。

日時：8月16日（土）

イベント：12時～16時30分@土佐高校

＊筆山ホール講演

…中澤卓史前高知県教育長（45回）

＊特別授業…酒井満先生

＊着物イベント…美馬勇作氏（65回）

＊寄席と笑いヨガ…大野沙耶花氏（84回）

（ほか）
懇親会：18時～@ザ・クラウンパレス新阪急
横田整二（40回生）

土佐40会・卒業50年の集いを開催

日程：11月15日（土）（龍馬生誕の日）

場所：高知サンライズホテル

40会 鍋島会長を始め推進委員が企画。
多くの参加で盛り上げましょう！

支部便り

北海道支部だより 山本隆昭(53回)

関東支部の皆さん、こんにちは。北海道支部の基本的な活動としては、例年秋に開催している支部総会と支部便りの寄稿です。本年度の北海道支部の特筆すべき事柄として、和田健夫支部長（44回生）が、今年4月に国立大学法人小樽商科大学第10代学長に就任されました。和田支部長は幹事長も兼任されており、ますますお忙しいようです。今年の支部総会の日程は決まり次第連絡しますが、あまり寒くなく、紅葉が楽しめる頃にしようかと思っています。総会へのご参加をお待ちしております。今後も北海道支部を宜しくお願い致します。

東海支部だより 瀬沼憲司(64回)

関東支部の皆様、こんにちは。去る5月24日、名古屋駅近くにて総会を開催いたしました。10年以上にわたり支部長としてご尽力いただいた久保田支部長が顧問に就任し、新たに前田支部長（38回生）を選任いたしました。懇親会では30名程のアットホームな雰囲気の中、楽しい時間を過ごし、最後に一同で校歌を斉唱いたしましたところ、私はフランスから続いている現地観戦の為、サッカーワールドカップの地、ブラジルに行きまして。帰ってきました皆様と日本サッカーについてお話しできればと思っております。

広島支部だより 森沢範康(50回)

関東支部のみなさま、こんにちは。幹事の森沢と申します。GWはいかがお過ごしでしたか？小生は、後半4連休に帰高、お墓参りで良い気分転換になりました。さて、たまたま広島県・愛媛県エリアにて「瀬戸内しまのわ 2014」～10月26日（日）が開催中です。広島県尾道市辺りから、しまなみ海道を通り愛媛県へサイクリング、島々を眺めながらグルメやイベントを楽しんでみませんか。最後に、今年の広島支部総会は、11月29日（土）に広島市内で開催です。女性の多い、アットホームな雰囲気をお楽しみに。是非、広島へお越し下さい。

香川支部だより 安岡和浩(75回)

関東支部の皆さん、こんにちは。「うどん県」で話題を呼んだ香川県ですが、最近では「うどん県」それだけじゃなく「香川県」でも売り出し中です。その中でも特にお勧めしたいのが、骨付鳥。鳥の骨付も肉をニクスの効いたスパイスで味付けし、表面はパリッ、身はジュウシに焼き上げたボリューム満点の一品で、アツアツを頬張るとビールとの相性は抜群！さて、香川支部では毎年7月の第1土曜日に七夕総会を開催しています。ぜひこの機会に讃岐うどんと合わせて、「それだけじゃない香川県」を味わいにお越しください。

関西支部だより 原田和人(56回)

関東支部の皆様、こんにちは。関西支部では今年度の総会・懇親会を4月13日（日）に大阪で開催致しました。今年度は役員改選がございましたので、新役員を紹介させて頂きます。【支部長】田辺曉人（45回）【幹事長】原田和人（56回）【事務局長】藤原由親（65回）【顧問】永野元玄（29回）中塚頼彦（31回）山下成子（32回）川崎美栄子（42回）。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、来年度総会は4月に京都での開催を予定しています。京都観光を兼ね、ぜひご参加頂きたいと思っております。お待ちしております。

関東支部だより 中平公美子(59回)

■支部総会・懇親会

6月7日（土）大学一年生の89回生を招待し、末尾4の回生の献身的な協力のもと、実に盛大に開催されました。総会で報告・審議された主な活動方針は、次の3点です。

- ①役員改選・新役員は2ページにてご紹介。
- ②学年幹事の見直し
事務局・常任幹事会にて、年内を目処に各学年幹事の再編・明確化を行い、次回の学年幹事会にご提案します。
- ③「はちきん会」10月4日（土）12時から銀座・D'AZZLE（ダズル）にて。濱田知佐さん（56回生）によるワイン講習会。（詳細は同封パンフレットにて）

■記念講演

高知県庁と高知県地産外商公社から事業受託し、『高知家』キャンペーンを遂行中の安田雅彦さん（52回生）。高知の魅力と故郷を支える思いを語られた。会場内にカラオケ配信中「高知家の唄」（作曲・岡本真夜・歌・島崎和歌子）が流れると、高知を想う気持ちは最高潮に、拍手喝采となった。「みんなあがひとて大家族」を実感しての懇親会は、4の回生の多彩な企画で大いに盛り上がった。（1頁参照）

追悼・泉谷良彦氏

お別れの会 十二月二日

ホテルオークラ東京 平安の間



泉谷支部長の想い出

関東支部支部長

森 郁夫 (四一回)

二年前に、昔の友人に会いたくて、関東支部総会&懇親会に出席した際、突然当時の泉谷支部長に呼び出されました。その席で泉谷さんから、関東支部支部長を引き継ぐようにとの申し渡しがなされたのです。正直私としては、本来協調性が高い人間でもなく、面倒見はまるで悪い人間であると感じていました。しかし、お断りする積もりでいました。しかし、その時泉谷さんがおっしゃった言葉は「断れないよ」という一言と、続いて「人にはそれぞれ役割が有るもんなんだ」という言葉でした。

二年前に、昔の友人に会いたくて、関東支部総会&懇親会に出席した際、突然当時の泉谷支部長に呼び出されました。その席で泉谷さんから、関東支部支部長を引き継ぐようにとの申し渡しがなされたのです。正直私としては、本来協調性が高い人間でもなく、面倒見はまるで悪い人間であると感じていました。しかし、お断りする積もりでいました。しかし、その時泉谷さんがおっしゃった言葉は「断れないよ」という一言と、続いて「人にはそれぞれ役割が有るもんなんだ」という言葉でした。

当時私は、勤めていた会社の社長を辞し、後任者に託した時期だったのですが、その時私が次期社長に対して言った言葉が「断れないよ」という、全く同じ言葉だったのです。自分が選んだ人間に後を託す、この事が選ぶ人間にとっては何だか大変な事かを実感していた時期であった事。もう一つ、それより六年前に当時の社長から次期社長をやるように指名された時に、正直躊躇したのですが、今までお世話

になった諸先輩や社会に対し、恩返しをすること、それが巡り合わせで私にめぐって来た役割なのではないかと思ひなしておいて、重責をお受けした事、それらの事が頭の中をめぐり、支部長をお受けする事にしました。そういう意味では泉谷先輩との交流はそれからの事であり、想い出として語る人間としては不十分かも知れません。

泉谷くんを悼む 二九回H 野村京生



泉谷君、幽明界を異にすることとなり、残念かつ淋しい限りである。君とは、高校の三年間同級生であった。しかし、家を行き来することはなかったし、喧嘩をした記憶もない。君が市内、僕は後免に在住していた

ことが原因の一つであろう。君との付き合いが深くなったのは、就職して相当経過してからである。同期会「二九の会」で再会してから、飲み友達となった。「土佐」、「桂浜」、「土佐酒蔵」などは君の紹介してくれた場所だ。

君が三菱石油株式会社の社長をしていた時、僕はその会社関連の石油備蓄会社に入ることとなった。君の言葉は一言。「どうなっているのだろう」。続いて「君の先輩の引き継ぎか。バラの木会に入れ」。「バラの木会」とは、土佐高出身者で石油関連会社関係者の集まりという。提唱者は泉谷君とか。当時のメンバーは六十余名。酒を愛し、旅行・ゴルフで英気を養わせていたのだ。感謝。

君が土佐中・高等学校同窓会関東支部の支部長を引き受けることが決定した後、君から支部の監査をしろとの電話があった。固辞したが、君の強引さに負けて引き受けることになった。しかし、君は支部長在任中、体調を崩して入院した。会社に関連する事件の心労に因るものであつた。退院後、同級生でお祝いの会を開いたが、杖が君の生涯の友となつてしまった。

君は、杖を突きながらも同窓会の支部長を務めていた。ある時支部長の後任を決める会議開催との連絡があった。役員の中に、交替



を考えた者がいたのであろう。何人かの候補者の名前があり、君が折衝することになった。「小生もこの機会に身を引く」と述べたところ、後任を推薦しろとのこと。僕は、適任者と思う後輩に電話したところ、快諾を得て役員を離れることができた。しかし、君の後任は難航したらしい。支部長を続けることとなった。同窓会の会合に出席するため、休み休み歩いているところを見て、早く後任が見つからないかと願ったものである。

支部長の後任が決まってこれからの時、細君を亡くされた。同級生有志で慰めの会を開催したところ、思いの外元気がうだったため一安心した。ただ、男寡で大丈夫かという不安が胸を過つたが、影響はなかったのか。

今は、君の冥福を祈るのみ。あの世で奥さんと再会されて楽しく過ごされていると思っている。霽明気の良い酒場を見つけていることだろう。そこでまた飲もうではないか。

泉谷良彦さんと
バラの木会と薔薇の木
二〇一四年四月十日 酒井芳美



二〇一三年の秋、所用で東京から戻ってきた私のもとに「泉谷良彦さんお別れ会」の報せが届いて居ました。その日、私の句帖に、「月室むサヨナラも無く逝きし君」とあります。振り返ってみますと、私は高知県人でありませんが、泉谷さん（今後、彼と書かさせていただきます）と同じ時期、土佐中・高で同じ空間に生きたことは確かです。しかし、当時の彼の記憶は臆気です。

それから数十年後、私は東京銀座で生き、薔薇の木という小さな店を持ち、その頃に、お会いしました。立派になられて、エネルギーを扱う男として、豪儀で熱意に溢れています。大胆で好奇心に富み、ジョークを飛ばして笑顔の似合う人でしました。交友関係が多彩で、作曲家、俳優、優さん、警察のかた、宗教者など、そして土佐高の石油の仕事の人達と、彼は人情の機微に敏感だったのです。



それまでのイデアの崩壊
今が現ではないような感
覚、そんな事を遠慮なく
語り合いました。

私が知らない昔の高知
やお祖父さまの話、一弦
琴の名手のおばさまのこ
となど伺いました。

路地の奥のバー、気の利いた小料理屋にお供しました。健康家で味に敏感でしたが、贅沢ではなかったと思います。お酒は時に応じて、種々で、強い方で、楽しい良なお酒です。江戸前の甘い厚焼卵が

大好きで蕎麦やで注文する時、恥ずかしそうにするので私が代わりに頼みました。パイプタバコを吹かし、銘柄はハーフ・アンド・ハーフだったか、このもしい香りがしていました。

私が大阪にきた頃は、あちこちにオレンジ色のスリーダイヤが風景としてありましたが現在では見ることはありません。しかし、住居の直ぐ近所に土佐稲荷神社があります。よく手入れされた桜の名所で、花の季節は朱い毛氈の屋台も出ています。鳥居や石灯籠は、明治からの三菱系の会社の社名が連なっています。創立者

で、彼も大阪勤務の時は、支店総出で初参りをしたそうです。今年も三月末兎事に咲きそめました。

『泉谷良彦さん』とは、私にとって何だったのか、猪どし、AB型、てんびん座の男前、この世的には、困難なことをやり遂げて、最も尊敬する年下の友であったと思います。

今は十三次元ぐらゐの世界から、三次元の私を見て、あかンペーをしているかも。
健気に生きた彼の笑顔を忘れることはありません。
土佐稲荷の桜は、いま半ば花半ば青葉です。
「我らまた一片なるに花降る日」
泉谷良彦さん、有り難う。

竹邑類さんを悼む
三五回 田中美樹

昨年十二月、演出家竹邑類さんが亡くなった。彼は宝塚歌劇の大舞台から小劇場まで、また中島みゆきはじめ人気スターのワンマンショーの脚本、演出、振り付けを手がけるなど幅広く活躍していた最後の仕事となった「クアトロ」の稽古場では、声が出なかった彼は白板を使って筆談で演出を続けたという。

高校時代、彼が演出した運動会の「越天楽」は和の音楽と衣装が画期的なものだった。今でもクラス会では話題に登る。

高校卒業後、彼が歩んだ道はまだ誰も行ったことがない道であった。上京して学生とアルバイトを掛け持ちしながら、ほかの時は持ち前の喫煙で芸術家や芸術家の卵達のためり場であった新宿「風月堂」やモダンジャズ喫茶「キーヨ」で何か

Thank You Peter

2014年
2/25 [大]
 会場：銀座・博品館劇場
 03-5561-7063
 全席 1,000円 前席 500円
 全席 ¥10,000 (税別)

お別れ会にもふさわしいお楽しみをご用意。
 ・シネマスコープ最新上映作を先着順で1部見放題。
 ・2部、3部、4部全席の抽選で豪華景品が当たる。
 ・抽選・1部全席の抽選で豪華景品が当たる。
 ・1部全席の抽選で豪華景品が当たる。
 ・抽選・1部全席の抽選で豪華景品が当たる。

竹邑 類 費 分 会

ピーター
ありがとうございました

主催：竹邑 類 費 分 会
 後援：銀座・博品館劇場
 03-5561-7063
 03-5561-7063
 03-5561-7063
 03-5561-7063

博品館劇場

薔薇の木会とは

エネルギー業界に携わる関東在住の土佐人の集い。1990年に発足。初代会長は泉谷氏。(石)油虫は薔薇の木に集まるという事から命名された。又、酒井様のお店が会の名の由来とも言われている。

(編集部)

筆山会新年会

2014年1月17日(土)

「冠する土佐の名に叶へ」
幸徳 正夫 (37回)

参加者は六五名。本年も盛会となった



筆山会の新年会が新春一月十一日、三年連続で明治神宮周辺の代々木倶楽部で正午より開かれた。会は前田憲一新幹事(三七回)が、中央線、京王線、小田急線が人身事故で遅延が出ているため、少し遅れて来る人もいますが、定刻となりましたので新年会を始めます、と不可抗力で遅れる同窓生への気遣いの言葉を添えた司会のもと、森健会長(二三回)の挨拶で始まった。会長は、多数の参加を頂いたことに謝意を述べ、OB・OGの方が幸せを感じる一年として頂きたい。そのためには、人

と人との交わりを大切に
して和を構築することが
最低条件である。そして
複数の同窓会の連携をは
かり、六十回余と開いた
同窓生の年齢差を埋める
ためにも人々との交わり
を大切にすべき旨を格
調高く話された。毎月気
楽に語り合えるランチ会
(*)も開いているので
是非ご参加頂きたいと、最後まで、
人と人との交流の大切さに思いを馳
せつつ挨拶を締めくくられた。
乾杯の発声は例年通り二一回の宮
地貫一大先輩である。このように同
窓会が発展していることは喜ばしい
ことです。お集まりの皆様方のご健
勝と母校の発展を願ってカンパニー!
宮地先輩の若さに見習うべしと会は
一気に盛り上がった。
続いて森郁夫関東支部支部長(四
一回)が「若い方の森です」と場内
の空気を和ませる一声から、三七、三
八回生が多数参加され会が盛会であ
ることは何よりですと新幹事の前田
氏に労いの言葉を添えられ、アベノ
ミクスのお蔭で経済も上向いている
ように思う。公共事業が盛んになっ
て高知の方も元気になってきているよう
だ。円が安い方にふれて円安ではな
く超円高が是正されて百円前後になっ
ている。一円の円安になると八十億
円の収益増となる会社もある。しか
し、輸入業者には厳しいわけで、も

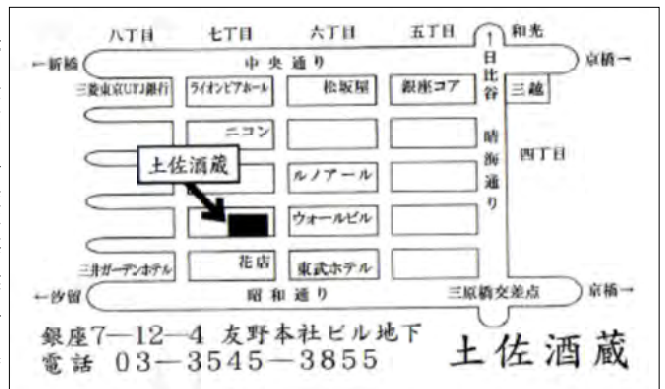
(*) ランチ会は、毎月第三
木曜日 十二時よりホテルニュー
オータニ ガーデンコート4
階 レストラン「ガンシップ」
にて開催。参加希望者は下記
アドレスまでご連絡ください。

前田憲一(37回生)
kmaeda@s4.dion.ne.jp

ろ手を挙げては喜べな
いとの話は弱者への気
遣いであり、経済界の
重鎮としての森氏の人
柄であろう。
しばし歓談の後、西
内一前幹事(三十回)
から昨年を総括して三
つの話をされた。一つ
目は、何と言っても二
十年振りの春の選抜出
場である。優勝した浦和学院に一回
戦で敗退するも出場にこそ値打ちあ
りの言葉にいやがうえにも会場はヒ
トアップ。二つ目は、六月の関東支
部総会が盛会裏に終わったことへの
担当回生への謝意と参加同窓生への
感謝であった。三つ目は、長く関東
支部支部長を務められた故泉谷良彦
氏(二九回)が同窓会に寄与したと
ころ大なるものがあつたことに触れ
られつつ、その人徳を偲ばれた。
会の挨拶としては一段落となり、
以後、懇親会の司会は中島宏氏(三
八回)にバトンタッチされ、ますま
すもって新年会らしい雰囲気となっ
た。
各種行事・同好会と参加のお願い
は、項目と担当者(発表者)の名前
のみの列挙に留めさせて頂く。

- 一. 同窓会関東支部の活動予定
市川直介さん(五三回)
- 二. はちきん会へのお願い
佐々木泰子さん(三三回)
- 三. 土佐中・高校卒業生若手の会
加藤丈典さん(七六回)
- 四. 高知県人会のご案内
岡田四郎さん(三八回)
- 五. 筆山会ゴルフコンペへのご案内
小松三男さん(四一回)
- 六. 土佐高ハイクの会へのお誘い
馬田宏さん(三七回)
- 七. 囲碁同好会の紹介とお誘い
野村京生さん(二九回)
- 八. 大麻雀大会開催のご紹介
前田憲一さん(三七回)
- 九. 写真同好会を作りませんか
沢村武彰さん(三八回)

引き続き、公文敏雄さん(三五回)



のガーナの報告があり、さらに自由スピーチでは佐々木聡吉さん(三七回)、中平公美子さん(五九回)、小路英明さん(二九回)、堀見淳二さん(四二回)の各氏が自己紹介を中心にスピーチされた。なお、カメラマン役を一手に引き受けて頂いた沢村氏には感謝感謝である。

が大好きなのである。新年会の参加者総数は飛び入り諸氏を含めて六五名とまさしく盛会であった。「晴れてよし 曇りてもよし不の山 もとの姿は変わらざりけり」と維新の立役者の一人山岡鉄舟は詠んだが、二つとない山を「土佐高」に置き換えれば、在校生も卒業生も共に土佐高の一点においてもとの姿は変わらず誇らしく良しではないか。二次会で飲み直す人あれば、同期でありながら卒業後五十年余にして始めて語り合う人あり、麻雀大会の会場の下見に行く人ありで、散会后、各人三五五神宮の森を後にした。みんな違ってみんないいのが同窓会である。

ガーナよさこい支援会

第十一回 日本研修旅行にガーナ高校生二十名が八月一日より来日。都内高校生との交流、東京や福島研修、ホームステイをします。『原宿表参道元氣祭スーパードラゴン2014』では八月二四日(日)午後演舞。日程詳細はHPで。

また、視野の広い青年を育てようと交流を始めて十年、いよいよ七月二三日から十一泊十二日で土佐高校生十名を含む日本の高校生二名をガーナに派遣します。次号『筆山』にて報告予定です。

宮地貫二氏の米寿祝会

四月一九日、東京ステーションホテル「プラン・ルージュ」にて、長らくご指導を受けお世話になった「三金会」のメンバー達が集い、宮地先輩の米寿(八八歳)のお祝いを致しました。

(皆様ご存知の通り)先輩の土佐高への貢献、功績は大きく、今なお今後の発展に寄せる情熱にお変わりありません。

宮地先輩 今後ともお元気で、後輩達のご指導よろしくお願い致します。

(編集部)



宮地貫二氏の米寿祝会(三金会) 2014年4月19日

ANTENNA取材日記

囲碁同好会

集中力はまだまだ向上中

碁会所内では、一時間程かけて囲碁板が黒と白で埋め尽くされる。先輩たちは真剣な顔で白熱した対局を繰り返す。前田憲一さん(三七回)・大町正人さん(三八回)が、基石の持ち方から「アタリ」「ツギ」「オサエ」等、囲碁用語交えての指導をしてくださった。初心者でも大歓迎され、楽しい時間が過ごせた。野村京生さん(二九回)は歴史・慣用表現など碁の知識を、囲碁は土佐中時代からという西内一さん(三〇回)は碁を通じての心の対話「手談」の楽し



さを伝えてくれた。夕食時も焼酎片手に話が弾む。ちよっぴり賢くなった? 一日だった。(編集部)



《囲碁同好会・会員募集中》

毎月第二火曜日午後一時から。

現在会員は二十名程度。一局三十分から一時間程度、相手を変えて三〜四局対戦対局。一局対戦する毎に手持ちのハンディが上下する点数制。ボケ防止にも最適。会食有。興味のある方はお気軽にご連絡ください。

【問合せ先】大町正人

〇八〇一五〇三九一三三五五

【場所】人形町囲碁倶楽部

水天宮駅徒歩一分

中央区日本橋蠣殻町

一一二八四一三F

学生・若手社会人交流会 杉本健輔(86回)

2013年12月21日 於：東大駒場キャンパス

＊交流会の様子をご紹介します＊

お酒を飲みながら絆を深め、刺激を得る交流会。大学4年生や社会人1年生の嬉しそうな就職報告や、社会人同士の仕事に関する愚痴や悩みも聞かれた。今回の記事担当の杉本健輔君は、東京大学4年生で現在【交渉学】を勉強中。日頃からOBとの交流を深めてきた。自分の仕事をハートで語れる社会人に魅力を感じている。彼の強みは、論理的な思考力と義務感。社会人1年目はこまづかいを完璧にこなしたい、と意欲的。存在感のある逞しい社会人になあれ。

(編集部)



昨年(2012年)の12月21日に東京大学駒場キャンパスにて、第6回「学生・若手社会人交流会」が開催された。若手交流会では関東在住の土佐校OB・OGが集まり、毎回講師として第一線で活躍される先輩をお招きして仕事に対する心構えやこれからのビジネスのビジョンなどをお話しいただいている。今回は49回生の武市智行さんを講師にお招きし「コンテンツビジネスの未来を変えるのは若い力だ!」というテーマで講演していただいた。70名近くの参加者が真剣に話を聞き、先輩から多くの学びを得ようとしていた。

コンテンツビジネスとの出会い

武市さんは土佐高校を卒業し、慶應義塾大学商学部を経て、株式会社四国銀行に入行されました。銀行という一見コンテンツ産業とは縁のないように見える世界に入った武市さんだが、仕事に慣れ地方銀行とは何かを考えたときに地場の産業の発展なくして地方銀行は立ち行かないと思い、中小企業大学校で学ぶことを選んだ。そして四国銀行が当時行おうとしていた大型融資の審査のため、家庭用ゲームソフト「ファイナルファンタジー3」を発売しようとしていた株式会社スクウェアに志向した。その後四国銀行を退職され、スクウェア代表取締役社長を務められ、平原綾香の「Jupiter」のリリースに関わるなどゲーム業界に限らず音楽など広くコンテンツビジネスに関わってこられた。この急速に拡大してきた業界を見てきた経験から、地方の持つ可能性と若者への期待についてお話をいただいた。

東京でできることは高知でもできる

東京への一極集中とともに地方の産業は元気をなくしている。高知も例外ではない。しかしコンテンツビジネスなどの新しい産業は状況を変えるかもしれない。武市さんは高知でゲームを開発するという試みを行い、実際に6タイトルのソフトを発売している。場所的制約がなく、コンテンツさえよければ世界で売れるという特徴は地方にとって大きなチャンスにつながる。地方が東京に比べ多くを持っていないのと同様、日本も世界的に見れば元から資源を持っているような国ではない。人が真似できることをやっている人も人件費の安いところには敵わない。そんな中、世界で勝つにはひたむきに努力することとリスクを恐れないこと、そしてそれができるのは若い人だ、と武市さんは言う。

なぜ若い力か

コンテンツビジネスの中で生きてこられた武市さんはファイナルファンタジーをはじめ、大ヒットとなったコンテンツを20代の若いクリエイターが作り上げるのを見てきた。そして夢と才能ある若者を支援することがライフワークだと述べられた。武市さんはなぜ若者に期待するのかについて夢や挑戦心、世の中の変化を見逃さないこと、新しい環

境に素早く適応すること、経験よりも斬新なアイデア、そして慎重さよりもスピードという5つのことを挙げられた。完全な情報が出そろってからではなく今わかることで判断を下すことが経営者やリーダーに求められることだと武市さんは言う。お話を伺って思ったのは若さとは年齢ではなく、恐れず諦めず挑戦するマインドのことなのではないかということだ。現に武市さんから若さを感じたからだ。私たち若者も負けない”若さ”を持たなくては行けないと危機感も抱いた。

私自身は若手交流会には今回で3回目の参加となったが、毎回参加者の愛郷心の高さを感じる。質疑応答でも地方を、高知を良くするためにはどうしたらいいのかという質問が多く見られた。地元を離れても地元を想う先輩方が多くいるのだと知ることができた。また、一線で活躍された経験を持つ方々のお話を聞けるのも魅力の一つだ。講演の後に行われる懇親会では、民間企業や官公庁にお勤めの方、または起業家まで多くの方からアドバイスをいただい、将来を考える上に大いに参考になった。若手交流会にまだ参加したことのない後輩たちにもぜひ一度参加してもらいたいと思う。



江戸百景(五)

駿河町・越後屋呉服店

江戸の昔にあったものが今も同じ場所にあるというのは江戸好きにとってこの上もなく嬉しいことである。越後屋の祖・三井八郎右衛門高利が江戸本町一丁目に間口九尺(約三米)の店舗を借り受け、越後屋呉服店を創業したのは延宝元年(一六七三)高利五二歳のときであった。その十年後の天和三年(一六八三)に店は駿河町に移転。高利は故郷の伊勢松坂に居たまま、江戸店(えどだな)を長男高平次いで次男高富に任せて、松坂から指示していた。程なく高利は京本店(西陣織呉服の仕入れ店)に移動し、名実ともに江戸店持京商人(えどだなもちきょうあきんど)として活動した。



(上)江戸切絵図<尾張屋清七版(嘉永頃-1850頃)>より日本橋北詰一帯。
(下)歌川広重「東都名所」より「駿河町之図」(天保十年頃-1840頃)。通りの北側は呉服店と両替店があり、南側は綿店と麻店であった。



(右)現代の駿河町・上写真に対応。左は三井本店。右は三井本館。現代は正面のビル群で富士は見えない。



(右)歌川広重「名所江戸百景」より「する賀てふ」(安政三年「一八五六」)。日本橋北詰から北へ一丁程行った左側に駿河町という通りがあり、真正面に富士が見えた。通りの両側は全て越後屋呉服店に占められていた。

越後屋呉服店の商売は他の呉服の本店とは最初からやり方が違っていた。他の本店は主として大名・武家・上級の商家を対象とした商いで、支払いが二節期払いの極みで、支払いの一回か二回の支払いの掛売りであり、長期間資金が寝て、支払い遅れや貸し倒れが生じやすかった。そういう危険を見込んで価格を付けるから高価となった。これに対して越後屋は店前売り(たなさきうり)で現金で小売する)を行い、現金売りだから商品を安くすることができた。店の看板に「現銀無掛値(げんきんかけねなし)」と大書していた。また、商品別の担当者

(手代)を決めて、客の要求に細かく応えようとした。また、客の要求によって呉服物の切売り、小切れの販売をやってきめ細かく需要に応じた。

三井越後屋呉服店は大発展して、創業二七年後の元禄三年(一七〇〇)には、江戸本店は記録によると六八八人の従業員(手代四五人、丁稚二三人)を抱えて、売上高は年商五万四千両(一日平均一五〇両)あった。これが宝永四年(一七〇七)には年商一二万三千両(一日平均三四〇両)に倍増しているが、以後幕末まで、何度も貨幣改鋳による物価の上下はあったが、あまり変化していない。江戸の需要が一定水準であり変化しなかったと思われる。シーズンにより一日千両の売上もあったであろう。これを江戸時代には「日千両」といって、江戸には

その日千両の商いがあるところが三井所ある、駿河町三井、新吉原、魚河岸だと言われた。元禄頃の三井越後屋の繁盛を詠んだ俳諧・川柳に「越後屋に衣(きぬ) 裂く音や衣替え」「駿河町量の上の人通り」というのがある。前者は其角の句である。切売り小切れ販売をやるので衣裂く音が盛んに聞かれたのである。西鶴の『日本永代蔵』にもこの店の様子がえがかれている。三井高利の始めた事業で忘れてならないものがもう一つある。三井両替店である。越後屋は江戸店開店直後から両替業務を行っていたが、駿河町へ移転後、店の一部に両替店を並置した。これが三井両替店の始まりである。当時は一般的に、上方からは高級手工業品はじめ多量の商品が江戸に送られてくるので、江戸から上方へ送金する必要があった。また幕府や諸大名は裏日本

や西日本の領地から収納する年貢を京や大阪で売りさばいて、その代金を江戸に送る必要があった。それぞれ送金の必要があったから両替商の手で送金の為替の取組を加減すれば現金銀を輸送しなくてすんだ。三井両替店は幕府の大坂御金蔵銀御為替御用(公金為替)を請け負って、公金を運用して大きな利益を上げた。呉服店と両替店は三井家の車の両輪であった。明治維新前後の動乱期に両店には危機もあったが、番頭三野村利左衛門等の働きで切り抜け、越後屋呉服店は三越百貨店として、両替店は日本最初の民間銀行三井銀行として、新たに設立された貿易商社三井物産とともに三井財閥の中枢をなしていった。三越と三井銀行(現・三井住友銀行)は三三〇年間、かつての駿河町を挟んで同じ場所にある。

〔四一回 西岡恒憲〕

甲子園と私 ②

浅井 伴泰 (三十回)

昭和四一年の四回目のセンバツでは高野山、室蘭工、平安、そして準決勝で育英を破り決勝に進んだ。第二試合の中京商対宇部商は延長戦になり、延長十四回表に宇部商が一点取ったので内心喜んだが、その裏中京商が追いつき延長十五回でサヨナラ勝ちした。決勝戦は上岡投手の好投も実らず中京商に〇対一で惜敗した。中京商は夏も優勝し史上二校目の春夏連覇を果たした。「部員十二名の土佐が準優勝」と大会史に載っている。

上岡投手は慶大から日本鋼管に入り監督もした。強肩の角田右翼手は早大を出て桐蔭学園の教諭になり一時中学野球部の監督も息子がお世話になった。角田氏は退職後高知に移住したので、グラウンドで時々会い車にも乗せて貰ったが、後輩達の晴れ姿を見る事無く先年急逝したの

は残念だ。
昭和四二年夏は二回目の出場で、初戦の相手は三年前のセンバツと同じ浜松商だったが、九

回に追いつき、前回同様ナイターの延長戦で下した。「吉田茂」と言う投手が出て来たのを覚えていた。二回戦で武相に勝ったが、準々決勝は二対二でまたも中京商に惜敗した。二年生エースの萩野投手は高校、慶大、新日鉄で全日本に選ばれ同窓で唯一ドラフト指名され、後に新日鉄監督も務めた。名前が私と同じ「トモヤス」で一時近所に住んでいたで時々酒を飲み、何

度かゴルフもしたが、彼が高松営業所長時代にシングルになり一度遠征挑戦した際大敗したので、最近では恐れ多くて手合せしていない。

昭和五十年夏はその年のセンバツ優勝の高知を下し、南四国大会の決勝の鳴門戦では、九回二死無走者から二点差を追いつき延長に入り、伊藤投手の決勝ホームランで八年ぶり三回目の出場を決めた。

「男に生まれて良かった」と感慨まった監督談話が高知に載った。初戦の桂戦で玉川選手(慶大、日本石油)が史上二人目のサイクルヒットを記録し大勝した。玉川選手は本、三、二の順で打ち、最後の打席で一塁強襲打、且のランブが点いた時は大歓声が上がった。二回戦の上尾



籠尾監督と

「夜のミーティングでも監督は落球については一言も言わず、返球を褒めてくれました。失敗しても最後まで諦めず全力を尽くせばリカバリー出来る事を教えて貰いました」と述懐している。

戦は接戦の末三対四で惜敗したが、当時小学生だった浦和学院の森監督がこの試合をテレビで見、野球を志したと新聞に載っていた。

翌年のセンバツにも選ばれ、初戦でドラフト一位で巨人入り

した赤嶺投手の豊見城と対戦した。ナイターになり二点リードで迎えた九回二死一、二塁、レフトフライで勝ったと思った瞬間落球、二塁ランナーは帰ったが、一塁ランナーは全力で走ってなかったの、レフト市川、中継片田投手の好返球で、ホームランタッチアウト。劇的幕切れで勝利の校歌を歌い、飲んだビールは格別だった。主演の市川選手は慶大へ進み弁護士として活躍する傍ら、私の二代後の同窓会関東支部幹事長、本部副会長を務めている。

数年後オホーツク海沿岸の枝幸(えさし)中から野崎投手が入ったと聞き北海道の縁で注目した。今でも自宅が学校から一番遠いのは彼ではないだろうか。彼が二年生でエースになった昭和五十六年夏の決勝戦は、急遽親戚旅行を高山で抜け出し、名古屋から空路応援に行ったが、高知に惜敗し甲子園出場は果たせなかった。しかし彼はその後慶大でも野球を続け伊藤忠に入社した。パンコク勤務の息子からゴルフコンペで会ったと聞き、一昨年パンコクで会食したが、この帰国してグループ会社の社長になったので、先日同期の東大浜田監督と一緒に就任祝いをし、遠距離受験の経緯やマスコミで話題になった桑田氏指導などの面白い話を聞いた。三年

二回戦で前年秋の神宮大会優勝の徳島商を六対〇で破ったがこの試合を最後に四十年近くも勝利の校歌を歌えなくなるなんて当時は思いもしなかった。準々決勝の相手は優勝候補の小山。籠尾監督としては珍しい玉川選



平成25年センバツ

左: 玉川氏 右: 溝渕氏 右端: 萩野氏(甲子園球場前)



平成3年春 神宮球場

生の時は野崎主将、浜田副将だったそうだ。浜田監督が神宮で五本ホームランを打った事は知っていたので、十七勝の岡村投手（元東大野球部監督、現高知工科大理事長）と同窓二人で東大の投打の歴代記録を持っていると思っていただけれど、彼は一本差で二位の由だった。

試合は七回まで完全試合をされていたが、八回に一挙逆転、見事二百勝を達成した。岡村氏も部長としてベンチ入りしていた。花宴が盛り上がったのは言う迄もない。宴会の段取りは宮地貫一先輩（二一回）がして下さった。

話は前後するが、私が関東支部幹事長になった昭和六十年、溝渕（三二回）、窪田（三八回）副幹事長、岩村（四一回）事務局長達と「野球部復活」をテーマに総会を企画したら四百人近くが集り、みんなで籠尾監督を激励した。初代三根校長のご子息のディックミネさんも駆けつけて下さった。この時関東支部に会費制を導入し、小松勢津子編集長（三五回）岩村事務局長（四一回）、宮川情報収集担当（三三回）の尽力で会報筆山を創刊した。以降二十八年間、年二回のペースで定着しているのは、支部会員のみなさまと、引き継いで下さったよき後輩のおかげである。

しかし部員不足は解消されない一方、松井五敬遠、レギュラーに高知出身選手が殆んど居なくて全国優勝、そして平成十七年夏には開会式直前に不祥事で、

平成3年夏安芸キャンプ(関東支部有志と激励)
左端: 籠尾監督、隣り長野氏、
右: 窪田氏、溝渕氏、右端: 萩野臨時コーチ

何度目かの出場辞退する等、何とか話題には事欠かない明徳の天下が続き、夏は一県一校制になったにも拘らず甲子園への道は益々狭くなった。記録を見ると明徳は十年間で夏九回甲子園に出たが、唯一阻んだのは藤川球児の高知商と言う時期もあった。そんな厳しい状況の中で、

平成元年夏試合前夜(宿舎)左から 山本部長、
籠尾監督、寺尾氏、濱村氏右端後姿 萩野氏

監督の執念が実り、平成元年の夏に一四年ぶりに出場したが、接戦の末東亜学園に敗れ、梅田で関東支部の「生みの親」の近藤先輩（六回生）を囲み残念会をした。この試合を見た阿久悠さんが甲子園の詩「白い風が吹く」を書いて下さった。

平成三年夏には関東支部有志で戦を持って安芸キャンプへ激励に行ったが、その効果？が直ぐに出て翌秋の四国大会で優勝、平成五年のセンバツに一七年ぶりに出場し東北と対戦した。津野投手の投打にわたる活躍で久しぶりの勝利かと思ったが、最終回到広島に入り首位打者にもなった嶋選手に打たれ逆転負けした。直後に籠尾監督が勇退し、著書「全力疾走三十年」を出版

され東京での出版記念会の幹事役を仰せつかったので、司会を監督の良き理解者のNHKの名アナウンサーの西田善夫氏にお願いした。籠尾ご夫妻を囲み、前田元慶大監督、宇佐中時代の教え子の有藤元ロッテ監督など多数の野球関係者が出席して下さい、和やかな会になった。

後任監督は教え子四人が見事にリレーしたが、野球特待生の

籠尾監督と西田氏（右端）
後ろの席中央は上岡氏

幾つになっても甲子園と聞くと血が騒ぎ胸が躍る。（完）
（平成二十五年秋）

蔓延？で高校野球は変質し、甲子園は一部の例外を除いて野球専修学校大会の様相を呈し、『普通』の学校の出場は益々難しくなった。その後の二十年間も毎年予選の応援に行ったが、いい結果が出ず、夏に二度決勝に進んだけれど、二度とも明徳に、九回に逆転負けと延長でサヨナラ負けし、今回が二十年ぶりの甲子園だった。

（平成二十五年秋）

向陽新聞に見る土佐中高の歩み ⑨ —「背伸びした青春」と「見守る師」— 44回 加賀野井 秀一

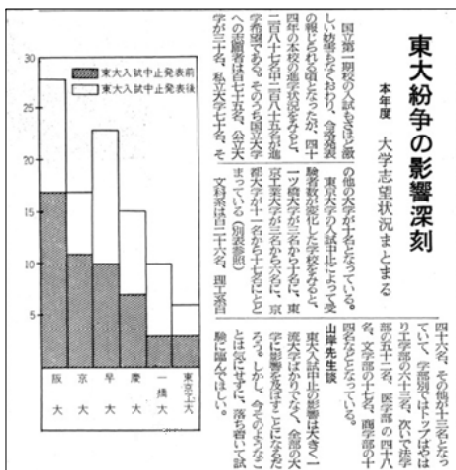
のっけから細かいことで恐縮だが、向陽新聞は昭和25年の第7号から元号表記をやめ、西暦を用いている。戦後5年が過ぎたことを暗に象徴するとともに、開かれた母校の姿をも示しているようで興味深い。そんな表記の是

非は別にしても、西暦を用いると、とたんに世界の動きが見えてくる。本欄では西暦表記の二ケタ略で、多少なりとも外部世界を反映させるようにしてみよう。



昭和41年
～44年
(1966～1969)

(右)
(左) 東大紛争の影響が伝えられる八〇号
七五号から登場する山岡伸一くんイラスト



六六年の七二号「らくがき」にはすでに「中共で起こった『整風』」のことが書かれており、「アクティヴな彼ら(紅衛兵)に行き過ぎの感がないではないが、受験地獄によって行動のひともできなくなっている私たちはこれでいいのか」といった思いが吐露されている。あるいはまた、七一号のごく小さな欄にも、「原水協」と「原水禁」との分裂を嘆く声が載せられていた。当今の世相からすれば、なかなか頼もしいマセガキぶりである(七九号にも八〇号にも「スチュ

デント・パワー」についての言及あり)。こうした背景もあってか、新聞にも学校側に対する要求が多くなる。時あたかも、校舎改築問題が浮上し、六六年七〇号の「一年内に詳細発表か」という曽我部校長との一問一答記事に始まって、毎号取り上げられなかったためはなく、それは結局、新校舎が姿を現わす七一年まで続くことになるだろう。したがって、この間は生徒も教員も、ともにハコモノに関する大掛かりな要求を出すことはできず、小さな改善を提案しつつ、今ある資源を有効活用しようと呼びかけるに留まっていた。

私たちにとってなつかしい木造校舎の姿は七三号の第一面に残されているが、今からふりかえってみれば味のある校舎ではあった。よく見ると、かなり老朽化しているが、新校舎を待望する新聞部の側からすれば、やや作画的に、そんな箇所を写真におさめたのではなかったかな。ともあれ、記事によれば、本

あるべき蛍光灯なのに、五〇ルクスを下回る教室が多かったらしく、声の欄に「眼に休息を」という一文を寄せた「中二男子」によれば、「ぼくはこの学校へ来て何におどろいたといっ



旧校舎とオンカン (向陽新聞73号)

て近視の多いことほどおどろいたことはない。ぼくたちのクラスでもメガネをかけていなくても約半数の人が近視である」とのこと。もちろんそれは「(土佐校では)みんなよく勉強し、本を読む」ということでもあったようだ。七四号には、学内に「近視予防委員会」なるものが設置されたという記事までが載っている。

先生の動向

カマスにオンカン

さて、先生方の動向はといえば、六六年の新任は、理科の岡部淳之助、得竹耕司、英語の栗田美千代、体育の西順寺哲夫、酒井青喜、数学の杉浦純夫の各先生。六七年には、理科の西森茂夫、社会の岡良吉、山本登、国語の藤田喜三郎、小島哲雄、体育の徳弘節子、英語の杉田隆六八年には、国語の西本貞、英語の井上聖香、森本堯士、理科の有道雅信の先生方が着任されている。また、七七号には「田村(尚子)先生ゴールイン」、新郎は「若き科学者」、七九号には「小島哲雄先生近く結婚同職が縁して意気投合」という見出しで、両先生の結婚が報じられてもいる。

さまざまな受賞もあるが、なかでも七六号でとりあげられた数学科「カマス」こと吉本要先生の叙勲をめぐるコメントは、いかにもこの時代と人柄とを体现しているようで面白い。「私がこうしてこの学校に長く勤めさせていただいておりますのも、みな、ほかの先生方のご配慮によるものだ。今度の叙勲も、私は何もりっぱなことはないとお

らないのだが、たまたま長く勤めておったから授けられた、というだけのことで、はなはだ恐縮だ」。

残念だったのは、生物の「オンカン」こと中山駿馬先生のご逝去である。七〇号には六六年一月に先生が高知県出版文化賞を受賞したという喜びの記事があり、「今後は、貝の恋愛や結婚など、一般の人にも楽しんで読んでもらえるようなユーモア

にあふれた本を書くつもりだ」と抱負を語られていた矢先、同年十月の七二号には「中山先生病床訪問、たいくつやねエ」が掲載され、シャツにステテコ姿の先生が描かれている。そして間もなく、七三号では逝去の記事となるのである。結腸ガンであった。

なお、以下の各号の「先生出番です」の欄には、それぞれの師の素顔がよく表われている。

小松博行先生「二十年目の哀歓」(七三号)、松浦勲先生「新聞週間」(七四号)、土居徹先生

なに、サンゴの頭をもつ 先生なる。それが「学」です。ロウをばさむが、その名にかなうといえる。おぼろいでも土居田 さん。うけが、そしてきつて



土居徹先生の姿

「部活動をシュート」(七四号)、田内瑞穂先生「戦友——兵士の友情」(七七号)、西森茂夫先生「自由は土佐の山間より」(七八号)、得竹耕司先生「山行雑感」(七九号)、楠本浩子先生「書物のある風景」(八〇号)、とりわけ田内先生の一文は、戦時中に身をもって先生をかばってくれた戦友の感動的な記録になっている。

やみゆきの話題

七九号には一味ちがった「ヒッチコック冒険記」という記事がある。

これは高二の石本浩市さんと溝渕健一郎さんの二人が、夏休み中に黒部から高知までヒッチハイクの旅をしたというもので、さまざまな障害に出会ったり、思いがけぬ人情に包まれたり、当時の高校生ならではの経験が描かれている。そういえば、当時の旅というのは、いかにも今昔の感のあるもので、七六号に掲載された曾我部校長の欧米視察記も、七一号の高崎元尚先生のアメリカ見学も、今からみるとまさしく大時代的と言っても過言べ

きか。曾我部校長いわく「来賓や国旗・国歌に対する敬意も深く起立脱帽が普通だったのは印象づけられた」。あるいはまた、

高崎先生いわく「とにかく、日本の絵とアメリカの絵とはまったくちがっている。アメリカには日本のように封建的なものが全然ないので思いついた作品を作ることができたのだ」。

相変わらず野球部の活躍は目覚ましい。六八年の七七号には「野球部映画に」の見出しが躍り、夏の甲子園大会が五〇周年を迎えるのを記念して、朝日新聞社が作製する記録映画「青春」に本校野球部も登場するということが報じられている。籠尾監督の談話では、五台山の三〇〇段の石段をかけ上がるシーンを二回も撮るはめになり、すっかり疲れてしまったとのこと。同じ紙面には、甲子園での活躍により、全日本ハイ・アメリカ遠征チームのメンバーに選ばれた広田義典・荻野友康両君の特別寄稿も載っている。

さらに、七〇号の「すっぽ」と「欄」には、名物食堂「太助」の主人・溝渕章人さん(三〇回生)へのインタビュー記事があり、七一号には県立盲学校教師の吉松格致(ただし)さん(二九回生)、七二号には大阪難波で漫才師として活躍している秋山左楽(本名・中平達男)さん(二八回生)が、登場し

ている。

そんなさまざまな記事を渉猟していると、ふと六九年八〇号に掲載されている「喫茶店がなぜ悪い？」という見出しが目にとまった。そこには「皇帝」「栄光」「王朝」「第五」「第一」が並んでいる。そう、これらすべては当時の喫茶店。土佐校ではすべて出入り禁止であったはずだが、なぜこんなになつ

かしいのだろうか。思えば、私たちも、ずいぶんと先生方にたてつきながら、その実、すっかり彼らの庇護のもとに甘え、青春を謳歌していたのだねえ。



土佐婚俱樂部

URL <http://tosakonclub.com/>

土佐の方のための結婚相談室です。
詳しくはHPをご覧ください。

東京相談室 (JMA立川内)
代表・室長 織田祐輔 (土佐第45回生)
〒190-0012 東京都立川市曙町-12-15 吉田ビル401
TEL 042-521-2020 FAX 042-521-2244
e-mail: tosakon-tokyo@tosakonclub.com

高知相談室
室長 岡 彩 (ハザマアヤ)
〒780-0973 高知市万々町5-5
TEL 080-6390-8710 FAX 088-872-2476
e-mail: tosakon-kochi@tosakonclub.com

竹内靖雄 (29回生)

●経済思想の巨人たち
<2013.11 ¥680 新潮社>

中城正堯 (30回生)

●江戸時代 子ども遊び大事典
<2014.5 ¥12,960 東京堂出版>

田島征三 (34回生)

●猫の恋
<2014.4 ¥1,600 芸術新聞社>

田島征彦 (34回生)

●こうたろう
<2014.2 ¥2,600 復刊ドットコム>

●はじめてふったゆき

<2014.2 ¥2,600 復刊ドットコム>

●龍馬の絵本 なかおかはどこぞよ

<2014.3 ¥2,000 復刊ドットコム>

竹邑類 (35回生)

●呵呵大将一我が友、三島由紀夫
<2013.11 ¥1,470 新潮社>

野田正彰 (37回生)

●喪の途上にて一大事故遺族の悲哀の研究
<2014.4 ¥1,280 岩波書店>●戯曲 サビーナ
<2014.5 ¥2,700 里文出版>

柿田睦夫 (38回生)

●悩み解決！これからの「お墓」選び
<2013.11 ¥1,512 新日本出版社>

塩田潮 (40回生)

●復活！自民党の謎 なぜ「一強」政治が生まれたのか
<2014.2 ¥886 朝日新聞出版>●権力の握り方：野望と暗闘の戦後政治史
<2013.12 ¥972 平凡社>

西村繁男 (40回生)

●タコのたこさちくん
<2014.1 ¥1,404 小学館>

黒鉄ヒロシ (41回生)

●もはや、これまで 経綸酔狂問答
<2013.11 ¥1,944 PHP研究所>●千思万考歴史で遊ぶ39のメッセージ
<2014.4 ¥702 幻冬舎>

高山宏 (42回生)

●インヴェンション
<2014.3 ¥2,376 明治大学出版会>

加賀野井秀一 (44回生)

●丸山圭三郎著作集 全5巻
<2014.3 岩波書店>

西田博 (47回生)

●矯正職員のための法律講座
<2014.4 ¥3,024 東京法令出版>

宮岡等 (49回生)

●うつ病医療の危機
<2014.6 ¥2,160 日本評論社>

阿部知曉 (51回生)

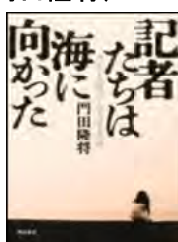
●くんくんくんおいしそう
<2014.4 ¥864 福音館書店>

坂東眞砂子 (51回生)

●瓜子姫の艶文
<2014.5 ¥1,728 中央公論社>

門脇護 (53回生)

(ペンネーム 門田隆将)

●記者たちは海に向かった津波と放射能と福島民友新聞
<2014.3 ¥1,728 角川書店>

英保未来 (54回生)

(ペンネーム 大森望)

●さよならの儀式
<2014.6 ¥1,404 東京創元社>●古代の遺物 (未来の文学)
<2014.4 ¥2,376 国書刊行会>●変種第二号
<2014.3 ¥1,102 早川書店>●謎の放課後学校のミステリー
<2013.11 ¥605 角川書店>

森岡浩 (55回生)

●戦国大名辞典
<2013.12 ¥6,696 東京堂出版>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない近畿地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>●あなたの知らない東海地方の名字の秘密
<2014.1 ¥864 洋泉社>

<2014.5 ¥1,404 集英社>

六七回生 遠藤瑞枝
(出版レーダー担当)

坂東眞砂子さんが二〇一四年一月二七日、舌がんのためお亡くなりになりました。五五歳でした。舞台は原発事故後の架空の町ですが、主人公の女性が長く外国に暮らし、日本人の共同体に違和感を持っていること、舌がんを発症すること、生まれ育った土地家を相続できないことに動揺することなど、坂東さんで自身の思いを本書に込めているように思えます。主人公は放射能に汚染された土地はいらなと宣言しながらも、代々の土地家屋が他人のものになると知った時の感情の描写は、今なお原発事故のために避難を強いられ故郷に帰ることを望んでいる方の思いも代弁しています。

本書は一月十日まで執筆され、遺作となってしまいました。もう筆山でご著書をご紹介できなくなるのは残念です。謹んでご冥福をお祈りします。

私の一冊

『眠る魚』 坂東眞砂子 (五一回生)